

上越エリア 平和企画「未来へつなぐ～語り部から学ぶ平和の大切さ～」

○講話内容○

- ・関 勝さん（上越日豪協会代表）「直江津捕虜収容所のお話」
- ・新保 啓吉さん（95 歳）「少年の目が見た 第二次世界大戦」
- ・倉林 一郎さん（93 歳）「長岡空襲の罹災体験」

平和企画「未来へつなぐ～語り部から学ぶ平和の大切さ～」にご参加いただき、誠にありがとうございました。

当日は時間の都合上、皆さまからのご質問に十分な時間を設けられませんでした。

そこで、参加者アンケートにてお寄せいただいたご質問について、改めて語り部さんで本人からご回答をいただきましたのでお知らせいたします。

参加者アンケート 質問への回答

Q. 語り継ぐ方はいらっしゃるのですか？

- ・語り継ぐ方はいません。経験者でなければ無理でしょう。
- ・志のある方に、戦争の過酷さと平和の大切さを次世代に伝える活動を引き受けていただきたく、心からお願いいたします。

Q. 戦争を体験していない世代でもできる平和活動、語り部はできないでしょうか？

- ・平和活動にもいろいろなタイプがありますが、平和は与えられるものではなく、作り上げるものだということを銘々が自覚することが必要だと思います。
- ・どこかの団体が行う平和活動に参加するより、あなたの立場や環境の中での活動が大切です。1人1人の人権を尊重し、多様な考え方も寛容な心で認めること。これまでのような家族関係を推進することが、平和活動の出発点だと思います。

Q. 当時の食事、配給品などを教えてください。

- ・私の家は兼業農家で、食事には困りませんでした。
- ・お米のご飯の代わりに芋やカボチャで代用しました。五分粥、野菜で量を増したおじや、配給された大豆で豆ご飯の時もありました。

Q. 私は小学校5年生ですが、小学校での生活がどんな感じだったのかを教えてください。

- ・都会の生徒は地方に疎開していたため、通常の学校生活は無理でした。
- ・私が通っていた小学校の話をします。日本軍の戦況が思わしくなくなると、ニュースで放送しなくなりました。当時の先生が、「勝ちが多いので、ニュースにしないのです。」と話すのを、素直に受け止めていました。勉強の時間は後々なくなり、夏休みも含めて、勤労作業や集団行動、軍事訓練が、学校で毎日行われました。ある日、先生が「人間は簡単に死ねるんだ。手拭い一本でも、洗面器一杯の水でも。」と言われました。今思えば、「捕虜になる前に自決しなさい。」という意図が隠れていたのではないかと思います。「国のために戦って死ね！」という教えでした。

Q. 戦争を体験された語り部だからこそ思う、若い世代に必要なことはどんなことでしょうか？

- ・難しい質問です。第二次世界大戦での死者は、日本は310万人、外国の方は2000万人でした。私達が忘れてはいけないのは、被害者だけでなく、加害者でもあるということです。その原因はなんだったのか。加害者としての責任を忘れないことが必要です。その自覚こそが、平和の「いしずえ」となるでしょう。
- ・戦争は、貧困、差別、抑圧、搾取、不平等、不公正、欠乏、更に自由・機会・移動・権利の制約などによっておこることが多いです。こういう動きを素早く見破るには、敏感な感性が必要です。きちんとした書物を通した幅広い勉強が必要です。聞こえの良い言葉や、インターネット、SNSなどの、好みの偏った知識だけでなく、先輩や上司の教え、忠告、苦言を謙虚に聞き入れることも大事です。若い人自らが、住み続ける日本が豊かで平和な国であるためにはどうすれば良いかを、真剣に考えてほしいと思います。

質問への回答は、あくまで語り部さん個人の見解に基づくものです